

智院殿の持ち給へる守本尊なりと。尙此の外にも寄附の品ありしかど、本堂火災の時焼亡すといへり。

○永隆山妙福寺

法華宗也。由來書に云ふ。當寺開基實成寺八代本覺院日譽、慶安二年建立。とありて、もと實成寺の支院にて、外に來歴なき小院也。尤寺地も舊藩中地子地なりしとぞ。

○惠光山善隆寺

法華宗也。由來書に云ふ。當寺開祖立像寺三代日淳弟子善光坊、寛永二十年に立像寺境内に草庵を建罷在。造立之檀那は、善光坊之兄安達彌兵衛也。其後慶安二年京都立本寺之末寺に成、寺號申請。とありて、是も元は立像寺の支院也。故に舊藩中寺地も地子地なりしとぞ。

○徳本山昌柳寺跡

法華宗也。由來書に、當寺開祖妙惣院日俊与云僧、富田與五郎母之爲菩提文祿四年建立。とありて、外に來歴なき小院也。故に舊藩中も寺地は地子地なりとぞ。按ずるに、富田與五郎は、富田系圖に、富田治部左衛門長男與五郎景勝天正十一年於柳瀬討死。とありて、越後守重政の養兄な

り。さて昌柳寺は、明治維新の際破却して、今は其の遺跡のみ也。

○圓通山融山院

曹洞宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開山は融山和尚与稱し、松山寺開山也。元和九年横山左衛門下屋敷に致隱居、融山院建立。四代列屋和尚住職之節、横山左衛門替地拜領被致、寛文七年に泉野寺町移轉仕。とありて、もと八坂松山寺の開祖融山和尚の隱居所なり。松山寺の由來書に、横山山城守元和三年に融山和尚を請じ開山とすとあり。右融山和尚は山城守長知の親類也といへり。

○笹ヶ町

或は笹下町とも書けり。此の町名の起本詳かならず。或は云ふ。四隣竹藪なりし故に町名とするかと。龜尾記に、石川郡笹塚の事を解して、一奇談を記載す。享祿の頃、當國大野郷に徳藏乙王丸とて富樫の一族あり。其の頃石川郡泉野に笹子といへる遊女ありしに、乙王丸常に通ひ馴れたり。此の笹子の居りし地、今は市中となりて笹ヶ町と唱ふといふ長談を記載し、此の説話は好事家の戯作なるべけれ

ども、今此の笹ヶ町に夜事店の有るも來由ある事ならんか。といり。按ずるに、笹ヶ町は茶島といふ地の繼ぎにて、茶島は櫻木と呼べる地の繼ぎなれば、むかしは此の地邊都て櫻島とて、櫻木の畑地なるを、後町名を建て、別地の如く成りたるなるべし。

○金昌山興徳寺

法華宗也。貞享二年の由來書に云ふ。能州瀧谷妙成寺之末寺に而、正保元年能登國羽昨郡寶達山の金坑盛なる頃、開祖秀閑日受寶達村に創立仕處、寶達山之金坑衰微仕るに依りて、檀那中金澤へ引取るに付き、慶安四年金澤へ出、寺屋敷之儀訴訟仕處、願不叶。依之同宗三寶寺に借地致し、草庵を結び罷在。延寶二年寺社奉行迄段々及訴訟に付、泉野寺町櫻島に於て二百歩之地子地相渡り、寺再興仕。とありて、延寶の金澤圖に、櫻島組地の末に興徳寺常覺寺の二ヶ寺を記載せり。又文化三年の由來書には、泉野櫻島に寺有之處、毎度の水損に付、明和二年出願に及び、泉野笹下町地子地へ移轉仕。とあり。按ずるに、櫻島にての水損といふは、犀川の崖縁なりしゆるなるべし。

○鬼子母神堂

興徳寺の鬼子母神と稱し、諸人甚だ信仰す。木像にて、其の長け五尺許の立像也。縁起等傳來せずといへども、傳説に云ふ。當寺開基檀那諏訪丸左衛門と云ふ人當寺へ納め、世々安置すと。諏訪氏は歩士にて、元能州に居住す。其の子孫今金太郎といへりとぞ。按ずるに、過去帳に、諏訪氏元祖の名を□神采女正後法體北庵とあり。此の法名にて見れば、由縁ある家柄なる人ならんか。二代目の法號は、新成院立孫日彦とあり。右兩靈の歿せし年號月日は記載せず。

○千佛山常榮寺

法華宗也。文化三年の由來書に云ふ。當寺開基正保二年能州瀧谷妙成寺日傳建立。最前者泉野櫻島に寺地有之處、毎度之水損有之に付、明和二年出願致し、泉野笹下町地子地申請、移轉仕。とあり。按ずるに、右常榮寺は、もと瀧谷妙成寺の支院にて、延寶の金澤圖に、櫻島組地の後に興徳寺・常覺寺の二ヶ寺を記載す。常覺寺は常榮寺の書損なる事いちじるし。間敷も載すれば、拜領地なるべし。

○茶島